

【職場体験活動】での活用事例

(中学校第2学年)

【活用した資料】

- 中学校版「心みつめて」p.32 第一章「自分の生命を…」九条 武子
p.156 第三章「『働く』ということを考える」

【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 4-(5)「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」

○ 事前学習で、「働くことの意義」や「職業」について考えるきっかけとして…

職場体験に向けた事前学習の中で、「働くことの意義」や「職業」について考えるきっかけとして、「心みつめて」第一章(p.32)九条武子の「自分の生命を…」の言葉を取り上げました。

武子の言葉の最後にある、「生命は仕事とともに不滅である」とはどのような意味なのかを考えさせながら、人はなぜ働くのか、人が生きていくためには何が必要なのかといったことについて、意見を交換させました。

次に、「心みつめて」第三章(p.156)「『働く』ということを考える」を読ませ、自分たちの考えをさらに深めさせました。特に三人の石工の話は、自分自身は「職業」の中にどのような価値や意味を求めていくのかを考えるきっかけとなりました。

それらの活動の後、p.157の「私は、『働く』ということについて、このように考える。」の欄に、考えたことをまとめさせました。はじめは漠然としたイメージしかもてていなかった生徒も、「お金を稼いで生きていくという意味でも、生きがいを感じながら生きていくという意味でも、働くということは生きていくこととは切り離せないものなのだと思う。」といった意見を書いていました。

○ 事後学習では、体験を通して感じたことや考えたことをまとめるために…

職場体験終了後に、体験を通して感じたことや考えたことをまとめる場面において、「心みつめて」第三章(p.157)「『働く』ということを考える」を活用しました。

事前に、体験先の方や家族に、働くことの意味や価値についてどのように考えているかを聞いておくよう指示し、それを基に、「家族や人生の先輩に『働く』ことの意味や価値についてどのように考えているか聞いてみよう。」の欄に記入させました。さらに、自分自身の体験を振り返らせ、「職場体験を通して、『働く』ということに、どんな考えをもっただろうか？」の欄に体験を通して感じたことや考えたことをまとめさせました。

「自分が誰かの役に立ったという充実感をもつことができ、もっと一生懸命がんばろうという気持ちになれた。」「実際に働いてみて、働くことの大変さと、その裏側にある大切さが分かった。」といった記述が見られました。

これらの取組により、職場体験の終了がゴールではなく、職場体験で学んだことを基に自分の将来像を思い描いていくことや、日々の生活の中で自分の役割に責任をもつ姿勢を身に付けていくことが大切なのだと気付かせることができました。